

生活デザイン農学研究室

(東京農業大学 農学部 デザイン農学科)

本研究室では生き物にしか成し得ない心理面や身体面での効果を評価し、医療や福祉の分野で活用する手法について研究を行います。介護者の負担軽減に通じる健康寿命を延ばす取り組みや、農福連携による就労支援と「生きがい」づくり、家庭動物との暮らしを通じ動物への探究心を育むことなどから、社会と環境に優しい生活スタイルの構築を目指します。

生き物連携センター

生き物連携センター(旧バイオセラピーセンター)は、人と動植物との豊かなかかわりに関する教育・研究をおこなうことを目的に、2007年、農学部付置施設として厚木キャンパスに開設されました。現在、動物エリアと植物エリアを擁し、農学部付置施設として実習・研究に利用されています。校内での学生教育や研究の活動だけでなく、近隣の小・中学校や支援の必要な児童から高齢者までの幅広い方を対象とする学外機関と連携した活動も行っています。



研究室活動

学外機関と連携した活動として、愛川適応指導教室、厚木適応指導教室、こども発達支援教室アクア、障害者支援施設すぎなの郷、YMCA、CP(脳性麻痺)プログラム 等があります。学生が各プログラムを担当し、生き物連携センターの職員さんと相談して内容を決めていきます。

馬の手入れ(ブラッシング、馬房掃除)、曳き馬、乗馬、ニンジンやり等馬との触れ合い、作業を通じて様々な学び、普段と違う空気を感じてもらいながら安全第一をモットーに、対象者に楽しいと思ってもらえるような活動を目指しています。



研究

本研究室では、様々な機材を使用し、動物との関わりで脳の血流や自律神経がどう変化するかなど、人と動物の関係が心身共にどのように影響し、双方に良い効果をもたらすのかを調査しています。

